



関修委・研究発表会場 (千葉市)

会は一時より倉持信雄校長 (松戸市立一中) の司会に始まり開会の辞を大沢梅雄校長 (市川市立一中) が行い、主催者を代表して山口会長と白滝全修協事務理事の挨拶に続いて来賓の千葉県教委海部指導主事、千葉市教育江主幹、荒木中学校長会副会長から祝辞が述べられた。

関修委と共に20余年

金修協白滝専務理事

山本理事長に代ってご挨拶を述べる。関修委が三十八年に結成されてから二十年になるが、三十四年春から「ひでの号」が運行されたが、東京と関東の中学生の修学旅行の輸送格差をなすように、全修協と千葉県教委、校長会と話し合い、修学旅行委員会が結成され、後に開

研究発表と研究協議は木内昭校長 (野田市立二中) の司会で円滑な進行がなされた。

発表の要旨は次の通り。
第一発表
東北へ修学旅行を実施して (松戸市立四中)
小川辰雄校長

立て、一年では集団行動の指導、二年では学級集団づくりと東北地方の情報収集、三年では関係教科の上から、東北地方の学習をまとめ、事前のイメージを高めていく。東北地方は距離的に長く、見学地A地点の学習を充実発展させ、B地点の見学につなげることが強調された。

修学旅行を終えて生徒の印象のアンケート調査では、全生徒が百分百よかつたと答えていた。また最も印象に残り、よかつたことが強調された。

①計画を立てる段階から生徒を

参加させる、②学級五、六名の班編成で、旅館出発八時、帰着十七時までとして、所定の時間に宿舎へ電話にて情況報告をする。

③グループの散策プランを立てて述べる。交通機関や時刻の調査などを組み立てる。

④グループ別調査研究活動の記録を壁新聞にまとめる、廊下に掲げる。

⑤コースの中にチェック・

ポイント六ヶ所を設け、教師を配置し、二ヶ所はどの班も通過する。

⑥常に班行動をとり、見学箇所の追加や変更は認めない。

⑦生徒に五千円ずつ渡し、交通費、昼食費等の使い方を工夫させる。

⑧グループの記録や個人の記録を壁新聞にまとめる、廊下に掲げる。

⑨宿泊施設の選定を委託する。

⑩各家庭の希望を聞き、

⑪各家庭の希望を聞き、

⑫各家庭の希望を聞き、

⑬各家庭の希望を聞き、

⑭各家庭の希望を聞き、

⑮各家庭の希望を聞き、

⑯各家庭の希望を聞き、

⑰各家庭の希望を聞き、

⑱各家庭の希望を聞き、

⑲各家庭の希望を聞き、

⑳各家庭の希望を聞き、

㉑各家庭の希望を聞き、

㉒各家庭の希望を聞き、

㉓各家庭の希望を聞き、

㉔各家庭の希望を聞き、

㉕各家庭の希望を聞き、

㉖各家庭の希望を聞き、

㉗各家庭の希望を聞き、

㉘各家庭の希望を聞き、

㉙各家庭の希望を聞き、

㉚各家庭の希望を聞き、

㉛各家庭の希望を聞き、

㉜各家庭の希望を聞き、

㉝各家庭の希望を聞き、

㉞各家庭の希望を聞き、

㉟各家庭の希望を聞き、

修学旅行実施状況 (3) 旅行目的地を掲載

(4) 特色 本県で修学旅行を実施しているのは、大部分が職業系か普職併置校であり、普通科の学校は数少ない。

各学校とも修学旅行のスケジュールは、教育的見地から色々検討し工夫している。特に、職業系の学校では、それぞれの専門学科と関係の深い施設・設備の見

前号まで、5、県立高等学校の修学旅行実施状況 (3) 旅行目的地を掲載

(4) 特色 本県で修学旅行を実施しているのは、大部分が職業系か普職併置校であり、普通科の学校は数少ない。

各学校とも修学旅行のスケジュールは、教育的見地から色々検討し工夫している。特に、職業系の学校では、それぞれの専門学科と関係の深い施設・設備の見

鹿児島県における修学旅行の実態と問題点 (2)

鹿児島県教育委員会学校教育課

学を計画の中に組み込んでいるのがほとんどである。例えば、K農業高校2年生の関西方面への修学旅行では、第一日の夕方、鹿児島駅から特急に乗り、翌朝大阪に着くと、大阪城を見学した後、K鉄工所では農機具の組立て作業を熱心に見学したが生徒たちが身近に使

する農機具もあるの

で色々と質問も出て、関心が高かった。

第三日目は、京都市内の見学の途中、林業関係の工場で、北山杉の加工等を見て、木材の生産、加工の重要性について認識を新たにし、銘木の価値を見直したのである。

第四日目は、朝早く、京都市の中央卸売市場で、鹿児島県牛・豚肉の出荷状況、肉質等について学習しました。青果市場ではセリの様子などを実地に見聞して、生産流通に関する学習

で経費百円の都合上、修学旅行先は制約を受けることになる。そこで、距離的に近く、気候、風土も似た沖縄への戦跡めぐりと共に、学校訪問等も計画されたりしている。

第五日目は、朝早く、京都市で実施

の修学旅行実施状況 (昭和五十六年度は九三%)

学校で実施

6 特殊教育諸学校

の修学旅行実施状況 (昭和五十六年度は九三%)

学校で実施

7 修学旅行の問題点

問題点

問題点